

2025年度  
第18回

# あおもり産木材活用 建築コンテスト

木づかい大賞は住宅新築部門より  
1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店が受賞。

令和8年1月28日、第18回あおもり産木材活用建築コンテストの表彰式が  
青森県庁において開かれ、最高賞の木づかい大賞（知事賞）をはじめ、  
各部門の受賞者が表彰されました。

文・写真=佐藤 史隆  
text/photo:Fumitaka Sato

AOMORI WOOD  
ARCHITECTURE  
CONTEST 2025



受賞者記念撮影

〈木づかい大賞(知事賞)〉は、住宅新築部門応募作品から、八戸市の1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店(作品:多賀台の家・八戸市)が選出されました。

また、〈木づかい賞〉には青森市の企業組合県木住(作品:本物の素材に囲まれて暮らす心地よさ・弘前市)と、東京都の株式会社プラスニューオフィス(作品:八戸港フェリーターミナル・八戸市)、〈審査員特別賞〉は、むつ市の齊藤工建(作品:無垢材や漆喰の自然素材に囲まれた十二間の住宅・むつ市)、〈県民投票賞〉は田子町の有限会社日沢建設(作品:自然体で暮らせる、木を感じるちいさな住まい・八戸市)が選ばれました。

応募総数は9作品でした。(住宅新築部門7、住宅リフォーム部門1、非住宅木質化部門1、非住宅新築部門0)。

授賞式の冒頭、審査委員を務める青森県農林水産部林政課の工藤真治課長が選考過程について報告を行い、「審査基準に基づき書類審査と現地審査を行った結果、木づかい大賞は、県産材が適材適所に使用され、地域の木材と職人の技術がうまく融合された居心地の良い空間づくりを高く評価し『多賀台の家』を選定した」と述べました。

受賞者への表彰に続いて、小谷知也副知事は「作品それぞれにおいて、県産木材の特徴を生かした使い方や工夫がみられ、木のぬくもりや心地よさが十分に伝わってきました。さまざまな建築物に県産木材を使用することは、伐って、使って、また植えるという森林資源の循環利用を支える重要な取り組み。また地域経済の活性化や

地場産業の振興にも貢献します。今後もスギやヒバ、アカマツといった良質な県産木材を使った建築物を県外の多くの方々にも広めたく、一層の県産材利用に努めていただきますよう、あらためてお願いいたします」と挨拶を述べました。

木づかい大賞(知事賞)を受賞した1952HINOKIYA一級建築士事務所の柁澤卓馬代表取締役は、「大変素晴らしい賞をいただき誠にありがとうございます。今回、木づかい大賞をいただいたが、昨年と一昨年に応募した作品は木づかい賞でした。過去2回の作品と何が違ったのだろうか自己分析をしたところ、今回は全体的にまんべんなく青森ヒバを使ってまとめられたところが大きかった。これからは青森ヒバや県産木材をたくさん使っていい住宅、いい建築ができるようにがんばっていきたい」と感謝。有限会社赤穂工務店の赤穂直樹代表取締役は「構造材はもちろん内部の造作材、建具も地元木材をふんだんに利用した。世の中は物価高で、住宅の着工件数が低迷しているが、地元材の普及に努めたいです」と話しました。

小谷副知事から青森ヒバ製の表彰状を受け取った木づかい大賞の1952HINOKIYA一級建築士事務所の柁澤卓馬さん(左)と、有限会社赤穂工務店の赤穂直樹さん(右)





続いて各賞の受賞者が感想を述べました。

住宅新築部門・木づかい賞の企業組合県木住の佐藤時彦代表理事は、「今回の住宅は、施主さんからお料理教室をやるという前提で、`本物の家をつくってください、`県産材でいい家を作ってください、というオーダー。濃厚な打ち合わせを繰り返しながら、設計から3年4か月という時間をかけて作り上げたものです。これからもユーザーさんの力もお借りして県産木材を広めていきたい」、非住宅木質化部門・木づかい賞の株式会社プラスニューオフィスの瀬戸健似代表取締役は、「このフェリーターミナルを設計するに当たり、海の玄関口として船の利用者だけではなく、八戸市民も気軽に利用できるような場所にしたいと考え、エントランスロビーをやさしい空間にするため、県産のアカマツを取り入れました。私たちは、全国各地でその土地の木を使っていますが、青森の木は、非常に力強く、やさしさ、あたたかみのある木という印象。そのおかげで、非常にあたたかみのある空間ができたと思っています」と語りました。

続いて、審査員特別賞の齊藤工建の齊藤誠代表は、「本当にありがたい賞をいただきました。私は二代目で、父親のところに戻って、当初から本物の素材を使いたいなと思っていました。今回は、もともとジャングルのような木が生い茂げる場所を何とかするところからの依頼でした。経年変化の魅力からスギ材を随所に活用しています。初めて出したコンテストで、賞をいただくことができたことをうれしく思います」、県民投票賞受賞の有限会社日沢建設の日沢景太専務取締役は「22坪のコンパクトな住宅です。自然体で暮らせる、木を感じることができる住宅というオーダーでしたので、県産木材を使ってしっかり木をみせたいと取り組みました。高性能住宅にも仕上がっています。この賞をいただき、これからも魅力ある住宅づくりに努めます」と述べました。

受賞者の言葉を受けて、最後に実行委員会の齋藤渉会長が、受賞者と関係者に感謝を伝え、「このコンテストは、平成20年より実施しています。県産材の利用にあたって住宅はもちろん、非住宅の木質化という分野も設けています。構造はコンクリートや鉄骨だけれども内装には木材を利用することによって今までにないあたたかな空間を表現していただきたいというものです。このことが県産材利用推進に大きく貢献することを期待しています。今後も木材の地産地消が進み、快適でぬくもりを感じる県産材でつくられた作品が広く普及していくことを期待して、このコンテストを続けていきます。これからもますますよろしくお願いします」と述べて、表彰式を締めくくりました。

また、表彰式終了後、会場を青森県火災共済会館に移して、受賞者らによる意見交換会が開催されました。この機会を通じて、関係者同士が交流を図ることで、県産材活用のさらなる発展につながればという趣旨のもと、各受賞者による受賞作品の解説の後、活発な意見交換が行われました。



# AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2025

2025年度  
第18回

## あomor産木材活用 建築コンテスト作品集

### Award Architect

【住宅新築部門】

▲ 木づかい大賞 ▲

1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店

多賀台の家

知事賞

【住宅新築部門】

▲ 木づかい賞 ▲

企業組合県木住

本物の素材に囲まれて暮らす心地よさ

【非住宅木質化部門】

▲ 木づかい賞 ▲

株式会社プラスニューオフィス

八戸港フェリーターミナル

【住宅新築部門】

▲ 審査員特別賞 ▲

齊藤工建

無垢材や漆喰の自然素材に囲まれた十二間の住宅

【住宅新築部門】

▲ 県民投票賞 ▲

有限会社日沢建設

自然体で暮らせる、木を感じるちいさな住まい

### Entry Architect

【住宅新築部門】 有限会社大坊建設「季坐暮(ときざくら)」

【住宅新築部門】 株式会社建築工房零 青森設計室「県産木材で建てる9坪の家」

【住宅新築部門】 企業組合県木住「Made in AOMORI 家族が集う居心地のよい暮らし」

【住宅リフォーム部門】 有限会社キーポイントホーム  
「スギの木目・艶・香りを感じて暮らす温もりに包まれた空間リノベーション」

### あomor産木材活用建築コンテスト実行委員会

■ 構成員：青森県木材利用推進協議会／(一社)青森県建築士会／(一社)青森県建築士事務所協会／青森県木材協同組合／青森県森林組合連合会／  
青森県森林整備事業協同組合／青森県国有林材生産協同組合／(公社)青森県林業会議、青森県建設組合連合会／(公社)日本建築家協会青森地域会／  
青森県(建築住宅課、林政課) ■ オブザーバー：東北森林管理局青森森林管理署、青森県優良住宅協会

【住宅新築部門】

木づかい大賞

## 1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店 多賀台の家



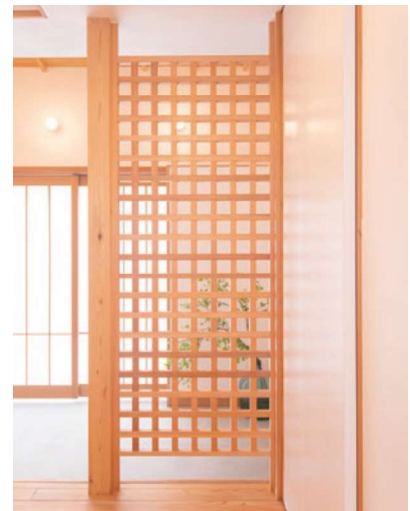
青森県産材の特性を活かし、適材適所に使用した住宅。耐久性と防虫性に優れた青森ヒバを、外観の一部や玄関ドア、土台に採用しています。地域の気候風土に適した、高い耐久性と美観を両立させました。室内には柔らかく温かみのある青森スギを、階段や床、天井、造作材に贅沢に使用。職人が手作業で仕上げた建具や家具は、家全体に温もりと特別な風格をもたらします。リビングには、薪ストーブを設けた土間空間を配置。外部と内部を緩やかにつなぐこの場所は、家族の日常生活を豊かに彩る憩いの場となります。高い断熱性能により、ストーブの熱が吹き抜けを通じて家全体に行き渡り、家中を快適な温度に保ちます。伝統の継承と地域経済への貢献も目指した、自然の恵みを享受する住まいです。

### 講評

この作品は、外壁の一部や玄関ドア、土台等に耐久性・防虫性に優れた青森ヒバ、階段やフローリング、天井、造作材などには柔らかく温かみのある風合いが特徴の県産スギがふんだんに使用された住宅となっています。

また、木の温もりと薪ストーブや土間コンクリート、漆喰壁などの自然素材の持つ高い蓄熱・調湿機能も相まって、快適かつ安心できる住空間として設計されています。

地域の木材と地元職人による技術が最大限に生かされており、県産材を適材適所に使用した居心地のよい空間づくりが、建築物への県産材使用の優良事例として高く評価され、大賞に選出されました。(審査委員会)



### DATA

建築場所：八戸市  
構造及び階数：木造2階  
延床面積：161.18㎡  
木材使用量：31.17㎡  
県産材使用量：19.31㎡  
県産材使用率：61.9%

### 【応募者】

1952HINOKIYA一級建築士事務所

八戸市柏崎三丁目8-13 Tel.0178-43-3848

有限会社 赤穂工務店

八戸市石手洗油久保6-10 Tel.0178-96-5510

■ 設計者／1952HINOKIYA一級建築士事務所

■ 施工者／有限会社 赤穂工務店

■ 県産材調達先／有限会社 檜屋木材店

受賞作品

AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2025

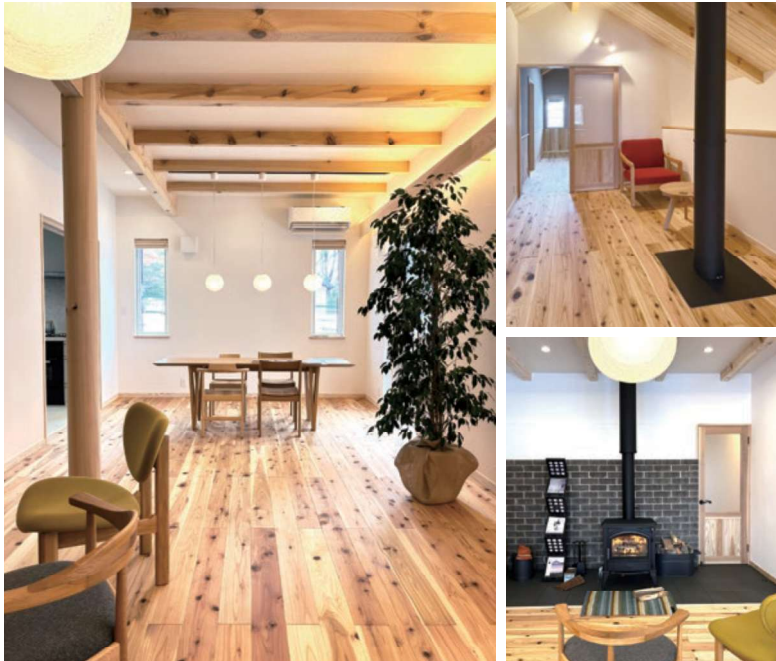
Award Architect\_02

【住宅新築部門】

木づかい賞

企業組合県木住

## 本物の素材に囲まれて暮らす心地よさ



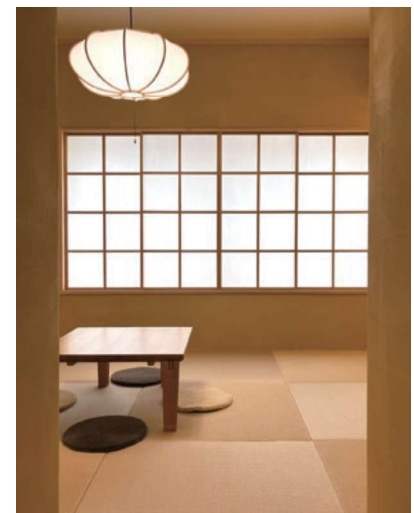
キッチン、ダイニングを活用した料理教室併用の家。くつろぎの場であるリビングは、伸びやかな天井に整然と並ぶアカマツの梁と、中央に立つスギの円柱が、空間に存在感を与えています。床には3cm厚のスギ材を使用。自然塗料で仕上げることで、夏はさらさらと心地よく、冬は室内の温もりを蓄えて暖かく、一年中素足で快適に過ごせます。また、リビングからはスギのウッドデッキへとつながり、アウトリビングとしてゆったりとした時間を楽しむことができます。2階は小屋裏利用のため、こもり感と木の香りが漂う山小屋風の雰囲気。外観は金属サイディングとスギ板を組み合わせ、落ち着いた色合いに仕上げました。デザインと性能のどちらにも県産材の良さを最大限に活かした設計です。

## 講評

この作品は、県産材やホタテ貝殻粉末入りの漆喰、土佐和紙、サーキュラーコットンボードなどこだわりの素材が各所に用いられた料理教室併用の住宅となっています。

外壁は紺色の金属サイディングとスギ板の組合せでシックな雰囲気仕上げられています。一方、内装は自然塗料を塗布したスギ板のフローリングや漆喰壁など全体的に穏やかな色調でまとめられ、間接照明の効果もあり、落ち着いた空間となっています。

県産材がふんだんに用いられており、施主と工務店とがこだわりのある自然素材と調和のとれた住宅を二人三脚で作上げた点が評価され、木づかい賞に選出されました。(審査委員会)



## DATA

建築場所：弘前市  
 構造及び階数：木造2階  
 延床面積：189.50㎡  
 木材使用量：68.62㎡  
 県産材使用量：46.93㎡  
 県産材使用率：68.3%

## 【応募者】

企業組合県木住

青森市浪岡徳才子福田60-2

Tel.0172-55-7793

■ 設計者／企業組合県木住

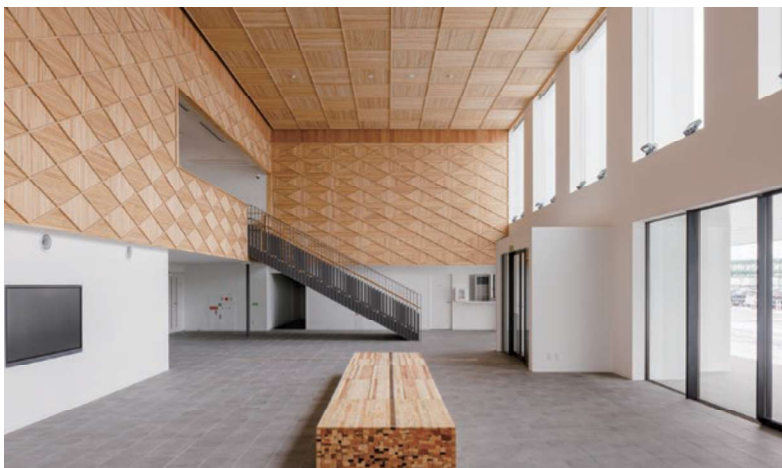
■ 施工者／企業組合県木住

■ 県産材調達先／青森県森林組合連合会 他

【非住宅木質化部門】

木づかい賞

## 株式会社プラスニューオフィス 八戸港フェリーターミナル



八戸市と北海道苫小牧市を結ぶフェリーターミナル。目指したのは乗降客だけでなく、誰もが海や船を眺めるために立ち寄れる空間です。1階エントランスロビーは地域情報を発信する展示スペースとして再整備し、イベント時は隣接する多目的室と外部空間を一体的に活用できる構成。2階は待合室とレストランを設け、3階には海を望む展望デッキを配置するなど、眺望を最大限に生かす造りです。2層吹抜けのロビー天井と壁には青森県産材を用い、「南部菱刺し」や「南部裂織」をモチーフとした意匠を施したほか、建設時に生じた木端材を再利用した家具は、地元木材加工会社の協力のもと八戸工業大学の学生が制作。外観は“氷都八戸”をイメージしたホワイトを基調とした、青森の玄関口です。

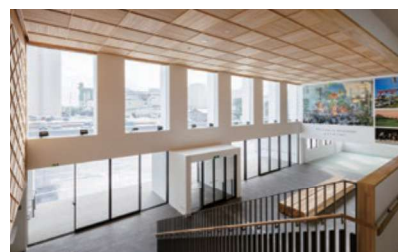
### 講評

この作品は、令和6年2月に供用開始された八戸市と北海道苫小牧市を結ぶフェリーターミナルです。

1階の二層吹抜けエントランスロビーには「南部菱刺し」や「南部裂織」をモチーフに南部アカマツを用いた地域性の高いデザインが採用され、木の温かみを感じられる、居心地の良い空間となっています。

夕暮れ時には正面の大きな窓から内装の木仕上げが浮かび上がり、昼間とはまた別の表情がみられるように設計されています。

流通材を用いることでコストを抑える工夫も見られたほか、青森を感じさせるデザインで壁・天井を仕上っている点が評価され、木づかい賞に選出されました。(審査委員会)



### DATA

建築場所：八戸市  
構造及び階数：RC造+S造階  
延床面積：3,653.17㎡  
木材使用量：4,939㎡  
県産材使用量：21.35㎡  
県産材使用率：43.2%

### 【応募者】

#### 株式会社 プラスニューオフィス

東京都新宿区山吹町352-22グローサ・ユニー・新宿6階  
Tel.03-6380-3634

- 設計者／株式会社 プラスニューオフィス
- 施工者／田名部・東復特定建設工事共同企業体
- 県産材調達先／青森県森林組合連合会

【住宅新築部門】

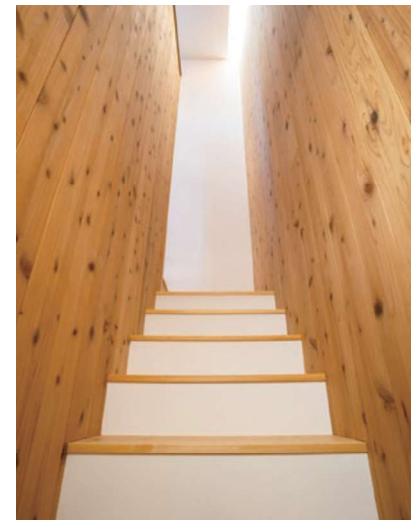
審査員特別賞

齊藤工建

## 無垢材や漆喰の自然素材に 囲まれた十二間の住宅



塗壁と平滑なホワイトサイディングに県産材のスギを組み合わせ、朝日を全身に浴びることができるように窓を大きくした外観は、下北地方の風土と景観への調和を意識しています。外装・内装ともにスギ無垢材を豊富に用いたほか、玄関ドアや建具の一部には青森ヒバを採用。室内に入ると木の香りが全身を包んでくれます。また、木材の調湿・リラックス効果に漆喰壁の働きが加わり、空気環境をより清潔な状態に保っています。自社職人の造作キッチンや調湿タイルの和室、梁あらかわしの勾配天井リビング、家族の気配がつながるLDKなど、施主様と社社のアイデアを融合により、高断熱・高气密と省エネ冷暖房、機能的換気を一体化し、デザイン面も性能面でも快適な住まいを実現しています。



### 講評

この作品は、雪にも合う白を基調とした塗壁仕上げとホワイトサイディングに加え、県産スギとレッドシダーでコントラストをつけた外観が目を引く住宅となっています。

内装にも無垢材やホタテ漆喰などの地元の自然素材がふんだんに用いられており、県外の設計者と地元の施工者が協力して完成させた雪国仕様の家づくりが評価され、審査員特別賞に選出されました。(審査委員会)



### DATA

建築場所：むつ市  
構造及び階数：木造2階  
延床面積：229.63㎡  
木材使用量：63.52㎡  
県産材使用量：21.35㎡  
県産材使用率：33.6%

### 【応募者】

#### 齊藤工建

むつ市田名部字前川目5-5

Tel.0175-23-3651

- 設計者／(株)アトリエ・リガ・テ都市建築計画
- 施工者／齊藤工建
- 県産材調達先／(有)なかにし他

【住宅新築部門】

▲ 県民投票賞 ▲

有限会社日沢建設

## 自然体で暮らせる、 木を感じるちいさな住まい



金属サイディングがスタイリッシュな印象の一軒家。室内はがらりと印象が変わり、木のぬくもりを感じられる空間に。室内は柱や梁を見せる真壁構造ですが、過度に大きく見えないよう寸法を調整し、見た目の調和を重視しています。地域の連携で仕入れた県産材は、自社大工による丁寧な手刻み加工を施し、樹種の特性に合わせて活用。床には無垢の杉材を使い、天井は無垢材を表しとしました。スーパーウォール工法を採用したことで、高い断熱・気密性能を実現。一年中快適な温度が保たれます。1階は地域に開かれたフリースペース、2階はワンルームのように暮らせるプライベート空間という、人を招きやすく暮らしやすい間取り。木の香りに包まれ、自然体で過ごせる心地よい住まいです。



### 講評

この作品は、外観は金属サイディングが用いられスタイリッシュでシャープな印象を受けますが、内装は杉板のフローリングや天井には無垢材の表しが採用され、木の温もりが感じられる住宅となっています。

一般投票では、「レトロでモダンな雰囲気が好み」、「木の温もりを感じる」という声が多く寄せられ、最多得票で県民投票賞に選出されました。(審査委員会)



### DATA

建築場所：八戸市  
構造及び階数：木造2階  
延床面積：72.70㎡  
木材使用量：44.43㎡  
県産材使用量：7.28㎡  
県産材使用率：16.3%

### 【応募者】

#### 有限会社日沢建設

三戸郡田子町大字山口字山口14  
Tel.0179-33-1839

- 設計者／スピカ建築工房一級建築士事務所
- 施工者／有限会社 日沢建設
- 県産材調達先／有限会社大坊建設

## 【住宅新築部門】 有限会社大坊建設

## 季坐暮(ときざくら)

伝統的な手刻みの職人技と、高気密・断熱のスーパーウォール工法を融合させた住まい。躯体や内部には、加工がしやすく、通気性や防水性が高い青森県産スギを、外部の胴縁には耐水性や耐久性が高く、腐朽に強いカラマツを使用。自然エネルギーを活用するパッシブデザインで、夏は陽射しを遮り、冬は暖かな陽だまりをつくります。1階リビングには落ち着ける畳スペースや、天井までの本棚を造作。大きな丸柱が家のシンボルとなり家族の成長を優しく見守ります。



## DATA

建築場所：八戸市  
構造及び階数：木造2階  
延床面積：80.97㎡  
木材使用量：18.94㎡  
県産材使用量：17.23㎡  
県産材使用率：91%

## 【応募者】

## 有限会社大坊建設

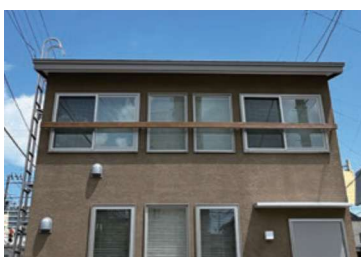
三戸郡田子町大字田子字下田子69-4  
Tel.0179-32-3580

- 設計者／有限会社 設計アトリエ 瀬野和広
- 施工者／有限会社 大坊建設
- 県産材調達先／有限会社 大坊建設

## 【住宅新築部門】 株式会社 建築工房零 青森設計室

## 県産木材で建てる9坪の家

解体した親戚の建物の古建具を活用した、夫婦と子ども2人のコンパクトな住まい。広がりを感じられるよう、プライベート空間以外は緩やかに繋がる間取りです。構造材の土台に青森ヒバ、柱・梁や2階の格子のスノコ床などに青森スギと、県産材を適材適所に使用。触り心地のいいスギは、枠材や造作家具にも採用するなど積極的に活用しています。準防火地域であるため、外壁は木材の使用を抑え塗装仕上げとしながらも、柵にスギを取り入れて木の温もりを添えました。



## DATA

建築場所：青森市  
構造及び階数：木造2階  
リフォーム面積：59.62㎡  
木材使用量：12.29㎡  
県産材使用量：11.19㎡  
県産材使用率：91%

## 【応募者】

## 株式会社 建築工房零 青森設計室

青森市栄町2丁目4-2  
Tel.017-718-1320

- 設計者／株式会社 建築工房零
- 施工者／株式会社 建築工房零
- 県産材調達先／株式会社 なかにし

【住宅新築部門】 企業組合県木住

## Made in AOMORI 家族が集う居心地のよい暮らし

ホタテ貝殻粉末入りの漆喰壁や、津軽びいどろを取り入れた明かり窓、青森藍で染めた障子、ブナコの照明と、Made in AOMORI をふんだんに取り入れた住まい。「明るくて気持ちのいい風が通る、居心地のよい木の家」を目指して、多彩な樹種を随所に使用しています。土台や玄関式台に耐久性のあるヒバ。柱に間伐材を利用したスギ芯持ち材。梁には横架材に適したアカマツなど。また、柱でスギの美しい木目を見せるなど空間に豊かな表情を与える使い方も意識しています。



### DATA

建築場所：青森市  
構造及び階数：木造2階  
延床面積：133.07㎡  
木材使用量：30.66㎡  
県産材使用量：24.30㎡  
県産材使用率：79.2%

### 【応募者】

#### 企業組合県木住

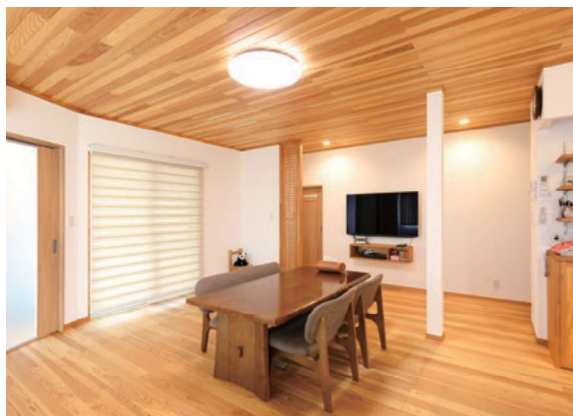
青森市浪岡徳才子福田60-2  
Tel.0172-55-7793

- 設計者／企業組合県木住
- 施工者／企業組合県木住
- 県産材調達先／青森県森林組合連合会 他

【住宅リフォーム部門】 有限会社 キーポイントホーム

## スギの木目・艶・香りを感じて暮らす 温もりに包まれた空間リノベーション

温かな空間を目指してリフォームしたお宅。断熱改修と窓の交換により、外気の影響を受けにくい室内環境を実現。寒さの厳しかった洗面所は、パネルヒーターの熱が床に伝わり、スギ材が温もりを蓄えることで、冬でも素足で過ごす心地よさを。暗かったリビングは、天井と床に無垢のあおもりスギを張ることで光が室内を反射し、日中は照明に頼らず過ごせる明るさを実現しています。将来にわたり暖かく省エネに暮らせる住まいに生まれ変わりました。



### DATA

建築場所：弘前市  
構造及び階数：木造1階  
リフォーム面積：55.06㎡  
木材使用量：5.92㎡  
県産材使用量：3.71㎡  
県産材使用率：62.7%

### 【応募者】

#### 有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11  
Tel.0172-88-7705

- 設計者／有限会社 キーポイントホーム
- 施工者／有限会社 キーポイントホーム
- 県産材調達先／青森県森林組合連合会